

科目名	写真表現			科目コード	2090
開講学科	初等芸術教育学科	単位数	4	形態	演習
教員名	小川幸三				
授業の目的及びテーマ					
<p>事実はひとつで真実は複数がある。今、ここに写真としてある写真について。</p>					
授業概要					
<p>眼で見るのと写真として見るとの違いを知る。写真に撮るとは見え隠れの探索になる。写真に撮ってはじめて新しい世界に一步踏み入ることになる。これはさまざまな出会いによって形成された繋がりの楽しさとなる。眼前にある魅力さを撮って発見しよう。</p>					
授業計画					
<p>第 1 回：今、ここにある事実について：ものに向けられる意識について特に見分け方を述べる。 第 2 回：同じでもカメラアングルで異なるについて：ローアングル・ハイアングル撮影。 第 3 回：左右に角度を変えたフレーミング撮影について：見せたい部分を広く見せた撮影。 第 4 回：対象に一步近づくと遠近感が異なる世界について：前ぼかして奥行感で雰囲気を引き出す撮影。 第 5 回：光の向きは、順光と逆光と斜光がある：逆光でシルエットやフォルムの表情で捉えた撮影。 第 6 回：ガラスや照かりものの映り込む世界：こちらとあちらが一体として溶け合う世界とした撮影。 第 7 回：影がつくる多次元のひろがりの美しさの世界：谷崎潤一郎の陰影礼賛を改めて読み直してください。 第 8 回：ものの隙間から見た世界：ひとはどこから来て、どこへ行こうとしているのかの自意識を述べる。 第 9 回：同じ被写体で角度を変えて一枚の写真としたコラージュ方法：デイヴィッド・ホックニーについて。 第 10 回：ハイキー調写真：ハイライト部分で作りだす陰影が少なく明るい綺麗な写真。オーバー撮影。 第 11 回：ローキー調写真：暗部の階調で作りだして重厚感や存在感のある写真。アンダー撮影。 第 12 回：被写体の色構成と色面積による構成：色彩同士の対比と補色関係に赤系と青系の見え方について。 第 13 回：瞬間(時)の欠片に見えるもの：高速撮影で動きを止めたダイナミック感ある写真について。 第 14 回：瞬間(時)の欠片に見えるもの：低速撮影でブレることで躍動感ある写真について。 第 15 回：カメラのシャッターボタンを押す。写真に撮ることで新たなドラマがはじまるについて。</p>					
テキスト	「フォトアート」有野水霧・土田ヒロミ・まつうらやすし・矢野彰人 共著		参考文献	「絶対平面都市」森山大道・鈴木一誌 著 「写真空間・写真家とは誰か」青弓社編集部 著	
評価方法：					
<p>課題件数とテキスト内容の理解度と将来に向けた展望(所見)の記載等が評価となる。</p>					

課題提出

三作課題・写真と概要文。pdf・jpeg画像もしくはA4紙現物画像貼り付けも良い。

課題概要

課題1. フォト・アートのテキストの第1章～第8章のテキスト文面から発見した要素や意義等を3項目を選びだしコメントください。

A4サイズ(一枚表紙、本文2,3枚。図式・写真も加える)2,000字数以上で記載してください。

例(なぜ人は写真を撮るのか、時間の移り変わり、ルネサンスの遠近法、広告写真について)

課題2. 私のベスト・ショット3作品以上とレポート提出。

近未来型写真といえる作品を求める。A4位に作品をタイトル・概要をレイアウトして提出。

レポートは、近未来型作品を論理的文体で、作品概要を1,200字数位で作成して張り込んでください。

※現代作品には、論理思考を求められる。

論理的描写は、評価を考えた文体とする。文面については、部分全体より全体部分で「したがってこのようになったか」創作に込めた動作性の強さ、経過、経緯を表わして前提となる条件に導く。

原因・理由を説明する「なぜならば」ではなく、結論を導く「したがって」「だから」扱う必要がある。

具体的に述べることを要求されている。

課題3. テクニカル・フォトの第5章. 身体行為がもたらす表現。自動画像ソフトは使わない。

課題3-1 コマ割り画面又はフォト・コラージュ」どちらかを作品として仕上げる。

課題3-2 「この制作を制作するにあたって」をA4に1,200字数位でコメントください。

コマ割りはA4に「10コマ割り」作品として仕上げる。(デジタル合成でも良い)。一枚の画面に、コマ割のラインを書き、貼り付けた現物作品を複写した作品。(漫画のコマ割りのような変形コマ・フレームも可とする)。

フォト・コラージュは、まず、同じ被写体をカメラで上下・左右・前後と異なる角度で撮る。デヴィッド・ホックニーのフォトコラージュ風に仕上げる。

「コラージュ」は絵画の貼り付けになる。現物を貼り合わせた後、複写したプリントも良い。

コマ割りの主は、フレーミングとフレーム展開はコラージュは切り抜いて貼りこみ多層作業となる。

どちらも貼り付けた行為になる。カラー・モノクロ。複写・合成等の貼り合わせ。平面・立体は問わない。カメラ機種は問わない。

課題レポート提出様式

表紙A4縦、課題名、題名、科目、所属、作成日 学籍番号、氏名 本文は記された文字数の前後。

写真は記録性を伴うが、見る側に想像性を抱かす写真が求められる。レポートは調べたことの証であり、読んだこと、問われたことに対し答えることにある。引用を書き出すとそれにより信憑性が高められるので記載すること。

評価方法：提出課題件数と課題内容の理解度と将来に向けた展望(所見)の記載等が評価となる。